

### 倶多楽火山

#### ○熱水の化学組成から推定された深部熱水温度の経時変化

これまでの推定深部熱水温度の時間変化は以下のようにまとめられる。

(1)2006年11月頃から温度が上昇し、12月に265℃の最高温度を記録したあと、2007年4月17日には240℃まで低下した。(2)この約半年後の5月3日に熱泥噴騰活動が始まり、その直後の5月5日には280℃に達し、この状態は5月16日まで続いた。(3)この後、温度は急速に低下し、5月30日には156℃を観測したが、直ぐに240℃前後に回復した。(4)これ以降緩やかな低下傾向を示し、現在は230℃前後で推移している。この温度は活動開始以前の2005年に比べて10℃ちかく高い。

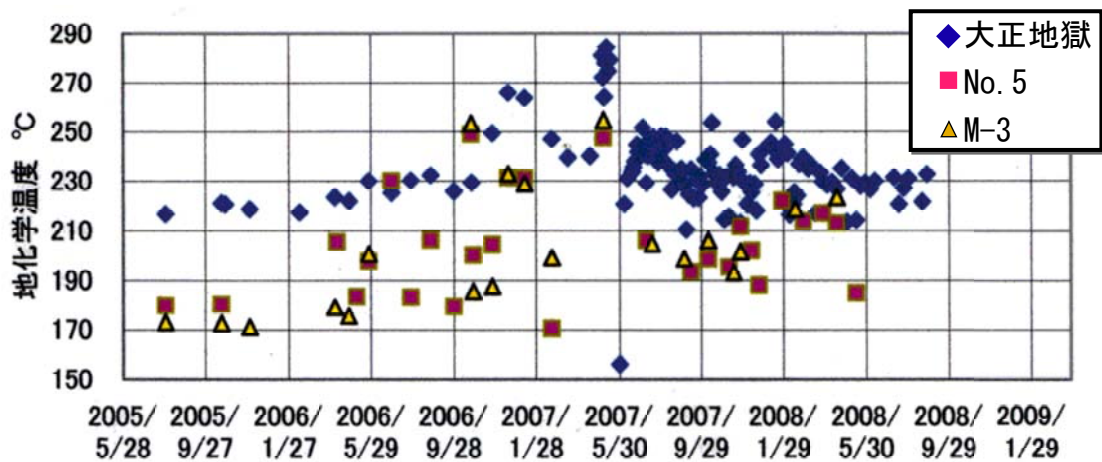


図1. 代表的な高温・高塩化物泉である大正地獄, No. 5, M-3 泉源の化学組成から推定された深部熱水温度 (Na-K-Ca化学温度計)

#### ○熱水温度と休止時間の時間変化

2008年5月末以来、噴騰活動は約1日間隔で繰り返されてきたが、11月下旬以降は休止期が数日にわたることもあった。特に、沼端から約10mの範囲に土砂を飛散させた2009年2月5日の噴騰活動は、2007年9月末以来となる9日間の休止期のあとに起こった

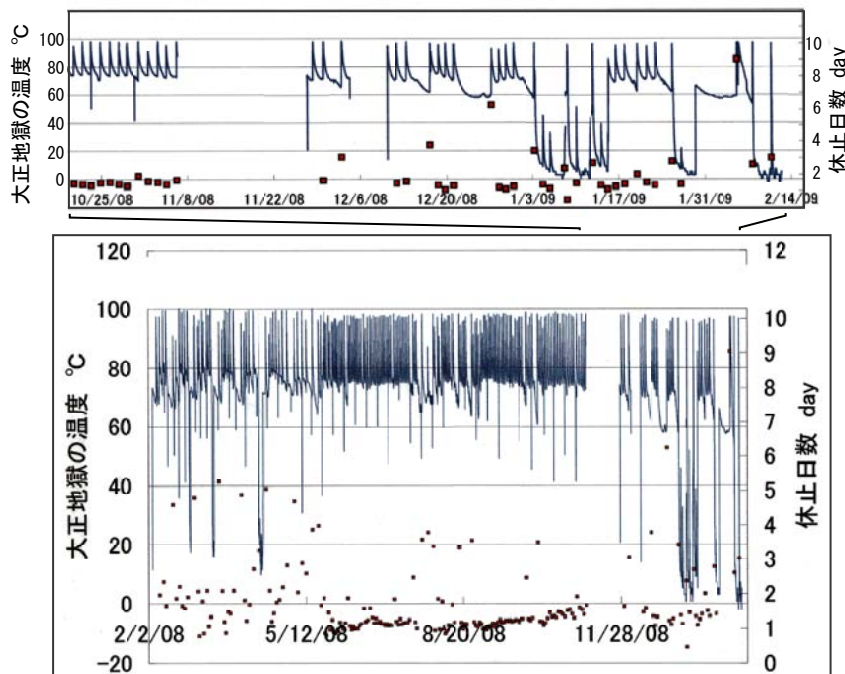


図2. 熱水温度と噴騰活動休止時間の経時変化

(我孫子・大島)

倶多楽火山